

# 今後の山小屋運営 検討経過

2025.2.3 訂正

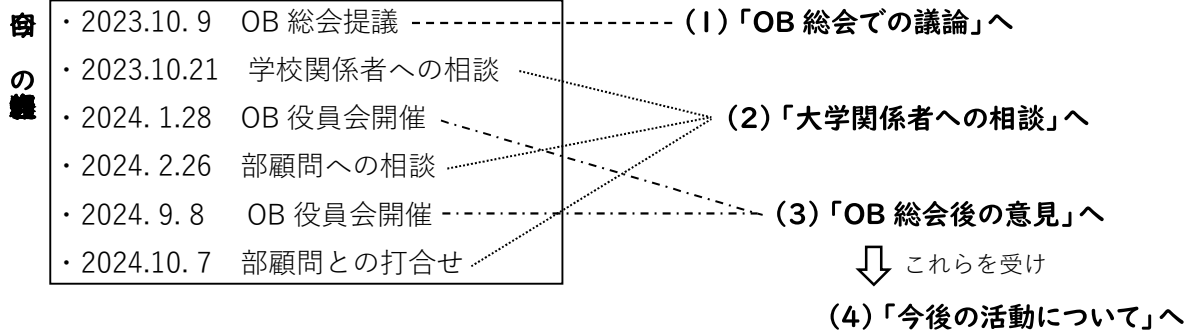
2025.1.16 〈公開用〉

TDUWVOB 役員会

今後の山小屋運営の検討に関して、2023年10月9日OB総会以降の検討経過についてまとめました。

〈これまでの主な動き〉

- ・2020.1月 今後の山小屋運営を考える委員会設置
- ・2023.9.11 委員会報告書



## (I) OB 総会での議論

〈開催日〉2023年10月9日(月) ※前日に創部60・山小屋設立50周年記念式典開催 於・青木荘

〈場所〉あだたら山荘

〈参加者〉OB34名、現役1名、部顧問が参加

〈資料〉「今後の山小屋運営を考える会報告書20230915」「【別紙】あだたら山荘の大学との共同利用について」(事前配布)

〈山小屋運営に関する主な意見〉

### ○資金について

・運営継続でも解体するにしても資金が必要である。今回の議論に限らずいつかは廃止するとして、撤去費用300万円規模ならば料金収入で賄えない。積立て等の方策を考える必要がある。

・利用料から資金を積立てることはできず、今後も毎年数万円ずつ減っていく。

→「運営」と「廃止」双方とも寄付に頼らざるを得ない。方針決定により目的を明確にして募りたい(役員会)

### ○土地賃貸借契約

2030年  
・2029年12月31日に土地賃貸借契約期間が満了するが、周辺では太陽光発電に土地活用されており、開発のため更新しないという可能性は考えられるのではないか。その場合、検討の必要はなく廃止が決定となる。森林組合に更新に関して確認しておくべき。

〈承認事項〉

以下を提議して承認されました。

- 1.【周知】検討会報告書の内容を広くOBに周知する
- 2.【議論】委員会報告書の提言に関する意見を集約する
- 3.【方針決定】役員会にて方針案を作成し別途OB総会にて提議する。提議は概ね1年後のOB総会を目標とする

## (2) 大学関係者への相談

大学との共同利用の提案について、かつて教授として深く部に関わり、以後お世話になっている大学関係者を訪問して意見を頂きました。その後、部顧問への説明を行い大学側へのアプローチについて打合せを実施しました。

提案内容はあらかじめ大学の考えを得て作成したものではなく、大学の運営に寄与するものかどうかは未知のものです。大学に資金が提供されるものでもなく、これまでの感触として進展は難しいものと思われます。現在、部顧問に相談中ですが結論は出ていません。

## (3) OB 総会後の意見

大学との共同利用案の他に存続させる手段として、部外団体との共同利用、あるいは譲渡する方法として、OB から次の意見が出されました。

①二本松市が地域活性化の目的で興味を示す可能性があるのではないか

②周辺エリアの大学で山小屋を持ちたい学生ワンダーフォーゲル部があるのではないか

上記①については、7月に二本松市住民センターを訪問し山小屋の課題について説明を行いました。周辺地域では後継者不足で山林等を寄付したい相談が多く、基本的に譲渡受けしていないようです。新たな情報があつたら連絡を頂くこととなりましたが、12月末現在で進展はありません。

②については、具体的に活動していません。

①②いずれも具体的な交渉を始めるためには、共同利用あるいは譲渡の条件について、大学や現役、森林組合等の関係者との調整およびOB会での意志決定が必要と考えます。

(付記)

山小屋運営資金について、2023年10月9日OB総会時点で2027年度中に枯渇する見込みとしていましたが、60・50周年記念式典をはじめ、機会ある毎に多くの寄付を頂いたことから、2024年度初時点で2037年度頃まで資金確保できる見通しとなりました。

## (4)今後の活動について

これまでの検討経過と今後の進め方について下図にまとめました。図中の「現時点ココ」標記以降の赤色点線の順に検討を進めたいと考えます。

- i. 学校との共同利用の可否確認
- ii. i が不調な場合、学校以外の団体との共同利用または譲渡に関する議論  
これに当たっては、OB 会での意思決定、学校および森林組合の合意の前提が必要であり、利用または譲渡の条件整理の作業が必要
- iii. ii を選択しない場合は廃止

